

平成31年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

団 体 名	株式会社福岡市民ホールサービス	
施 設 名	福岡市民会館	
助 成 対 象 活 動 名	普及啓発事業	
内定額(総額)	1,786	(千円)
公 演 事 業	0	(千円)
人 材 養 成 事 業	0	(千円)
普 及 啓 発 事 業	1,786	(千円)

(3) 平成31年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	コココのダンス	2019/5/5	対象・出演: 重度の障がい児とその家族 ダンスセラピスト: WaLEWaleWOrksマニシア	目標値	参加者 15人 来場者 500人
		福岡市民会館大ホール		アウトリーチ 11/2 場所:福岡療育センター 一番星古賀	実績値
2	バックステージツアー2019	・2019/6/15 劇場探けん隊	ゲスト出演: ・6/15 社会福祉法人 明日へ向かって -ガムラン・Go On	目標値	170人
		・2019/8/5 福岡市民会館大ホール 劇場スキルのみ練習室		・8/5,8/12 劇団 FOURTEEN PLUS	実績値
3	リトルスターダンスフェス	2019/2/2	出演:福岡市近郊のダンスチーム	目標値	参加者 400人、入場者 1000人、合 計 1400人
		福岡市民会館大ホール		実績値	参加者 480人、入場者 1000人、合 計 1480人
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割(ミッション)や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>・拠点文化施設として</p> <p>福岡市民会館のミッションは、子どもから高齢者、性別や障がいのあるなしに関わらず、すべての人が集い、多種多様な文化芸術を鑑賞し、地域文化の創造と発信の場を寄与することであると考えます。参加数値において、目標であったコココのダンス約7割、バックステージツアー約9割、リトルスターダンスフェス10割の参加を促せたということは、文化的・社会的意義において、今後も人々が集い、その中で文化芸術と関わる機会へのニーズがあるということであり、そのニーズに応じていくことが望ましいと考えます。参加者・観覧者ができるだけ平等に集い、優れた文化芸術に触れ、感動と希望を見出すきっかけを提供するというミッションの基、参加無料という事業は魅力のひとつである。</p> <p>・コココのダンス</p> <p>本事業については実施の段階では助成対象外と誤認して実施し、当初要望額と執行額に隔たりが出た。5/5の本番では助成に対しての十分な効果を発揮できなかったが、その後、11/2に福祉施設で実施したへのアウトリーチへの活動の場への促しに繋げることができた。</p> <p>・バックステージツアー2019</p> <p>本事業に関しては、事業日程の調整が指定管理者再公募の年にあたり、例年と同様のスケジュールで行うことが難しくなった。6/15・8/5・8/12の3日間の分散開催となり、広報の晦渋、参加人数の伸び悩みの影響が出た。</p> <p>・リトルスターダンスフェス</p> <p>本事業については出演団体の公募から実施まで当初の予定通り進めることができた。8/15より募集を実施したところ、20団体の枠に対し、実施開始年度より最大の42団体より応募があり、例年のバレエ・ヒップホップ、チアダンスに加えて初めて社交ダンスの団体を選考することができ、文化芸術のすそ野を広げることができた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>・コココのダンス</p> <p>重度の障がい児とその家族らを対象として、外出する機会を与え、ダンスセラピストらとダンスを通して、文化芸術に触れ、心の豊かさを高める機会をとした。文化拠点施設が文化芸術と医療や福祉が繋がるきっかけを寄与できる事業であり、今後もアウトリーチなどで広く文化的・社会的意義を推奨していくものである。</p> <p>・バックステージツアー2019</p> <p>福岡市民会館特有の施設紹介だけにとどまらず、子ども達に向けての、舞台機構のワークショップを開催。次回以降も、市民文化の殿堂としての拠点文化施設の歴史の紐解きや、舞台演出などを通して、スタッフとのコミュニケーションの場を設け、青少年の育成や地域の活性化に繋げていく。</p> <p>・リトルスターダンスフェス</p> <p>多種多様な文化が溢れる地域だが、それを身近に感じられるチャンスが少ないともいえる子どもや保護者らに向けた企画内容であった。これにより文化芸術活動の拡大は、地域住民の鑑賞及び、家族のコミュニケーションのツールにも繋がり、一番の目的とする青少年育成の面において、共に生きるためのきづな形成のきっかけを寄与できると考えている。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

・全ての事業において

実施したアンケートより、楽しかった・また参加したいなどの意見が 7 割、初めて参加した・初めてホール・劇場にきた等の意見が 4 割を達し、目標を上回る結果となった。

・コココのダンス

重度の障がい児と家族が劇場という非現実的空間で非日常的な体験をすることにより、心の豊かさを向上させる力や生活の質の向上のきっかけを目指すとともに、福祉と文化芸術の共生・共存について考える場を提供したいと考え実施したが、参加者の生き生きとした表情や表現が舞台上で観られ、感動した・素晴らしかったなどのコメントを多くもらうことが出来た。後日、関係者からの報告会でも、ステージの袖で“小さな奇跡”が起きていた事や、感謝の手紙をもらったという事例などが挙げられた。アウトリーチに関して、今回は施設スタッフから、ダンスという概念への前向きな意見があった。これは、地域の劇場と福祉施設がつながることで、芸術文化に触れることが少ない人へのアプローチに繋がった。

アンケート結果(回収率 65%)

3)コココのダンスクリエイションについて

とても良かった	良かった	普通	良くなかった	全く良くなかった	無回答
42	5	0	1	0	2

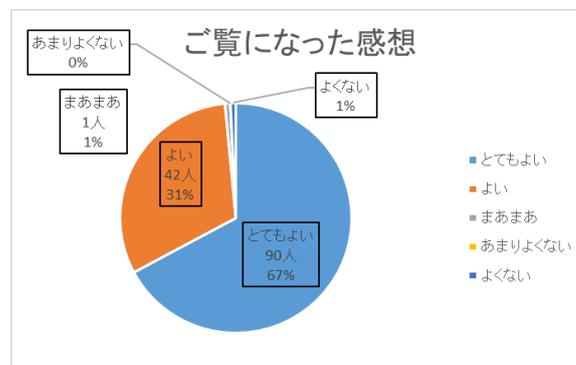
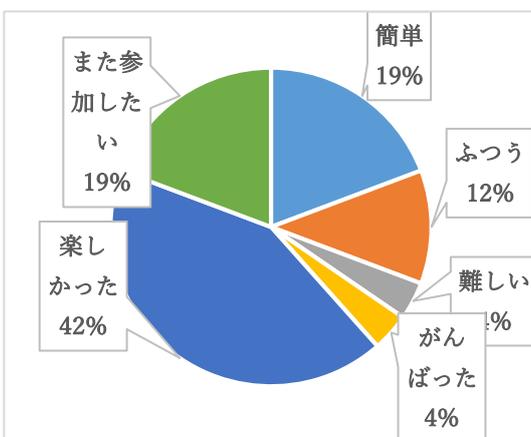
・バックステージツアー2019 とリトルスターダンスフェス

目標としては、劇場・舞台を身近に感じてもらうこと、舞台芸術や地域文化と関わるきっかけを繋げること、達成感や責任感、視点を変える意識を持つきっかけづくりの三点であったが、参加者より、楽しかった・面白かった、知らない世界を知れた喜びがあった、という意見は、目標達成とともに、拠点文化施設のニーズを改めて考えさせられるものとなった。

アンケート結果

バックステージツアー(回答率 80%)

リトルスターダンスフェス(回収枚数 142)



(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

・全ての事業において

文化芸術と関わる機会の少ない生活をしている人たちへ、多く認識・参加してもらえるように、学校・施設などを中心に、広報活動を行った。それぞれの企画の広報活動方法は、計画通りではあったが、今後の集客や新規開拓に向け、さらに幅広いニーズに応えられるような方法を検討する必要がある。

・コココのダンス

当初、助成対象外という認識のもと、事業計画を進めており、修正の連絡を受けたのが、本番終了後だった為、収支の予算から大幅に少ないものとなってしまった。助成を受けたのが初めてということで、認識の齟齬によるものであったが、後日助成対象として、アウトリーチを行えたことは、大きな進展となった。

・バックステージツアー2019

広報活動の期間に対しては、適切に計画通り遂行できた。しかし例年、ツアー(館内ツアーとゲストによるデモンストレーション)とクリアザミッション(舞台スタッフお仕事体験)を一日で行う企画内容であったのだが、今回は指定管理者再公募の年にあたり、事業日程の調整が一般選定の後となった為、日程を分割して行わなければならない、参加募集の伸びには至らなかった。また、クリアザミッションと劇場スキル(ワークショップ)は、夏休み期間の実施にこだわった為、対象者(小学生)らが足の運び辛いお盆時期に重なってしまい、参加申し込み率の低下、当日キャンセルなど、かなり厳しい状況となった。企画の日程調整は、今後の検討課題の一つである。

・リトルスターダンスフェス

広報活動の期間に対しては、適切に計画通り遂行できた。8/15より募集を実施したところ、20団体の枠に対し、実施開始年度より最大の42団体より応募があった。そのうち9月上旬に20団体を選考、10月上旬に指導者への説明会を実施したことで、出演する子どもたちに十分な準備期間を与えることができた。これにより長い時間、本番へ向けて目指す目標や目的をもって日々を過ごすという貴重な時間を与えることとなった。

(4)創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった(と認められる)か。

・コココのダンス

重度の障がいや難病をかかえた子ども達が、劇場でも安全で安心できる空間づくりを行った。仮設のスロープ設置や、舞台上がる為だけではなく照明・音響機材に触れる事ができるような仮設スペース設営、更に楽屋には休憩やケアがしやすいように仮設のベッドを配置した。本格的な舞台演出の中、ステージに立つことによる緊張を和らげるため、事前にワレワレワークス代表マニシア氏によるダンスクリエイション、舞台機構(盆・迫)体験も実施。医療スタッフのサポートだけではなく、介護士免許をもつ舞台監督が子ども達に寄り沿いながらの進行が可能となった。コミュニケーション支援アプリ UD トークを使用して観覧者の多様性も考慮。後日、毎日新聞に掲載・地方局 RKB 毎日放送より密着取材として、放映された。

・バックステージツアー2019

バックステージツアーでは、新たにパンフレットを制作。施設の歴史や紹介を思い出や記録として残してもらえるようになった。さらに施設紹介だけではなく、デモンストレーションのアーティストでは、文化庁のイベントにも参加経験のある団体で社会福祉法人 明日へ向かって ガムラン・Go On のミニコンサートを開催。盆やスモークを駆使した幻想的な舞台演出で、福祉と舞台芸術の在り方を考えるきっかけを寄与できたと考える。

劇場スキルにおいては、スタッフ手作りの“舞台キット”のバージョンアップを行い、好評であったが、今後は実施日程の考慮に加え、プロデュース内容を見直し、より多くの子ども達の目に触れるような機会を設ける予定。お仕事体験クリアザミッションとワークショップ劇場スキルは、地元劇団 FOURTEEN PLUS の両日出演とした。別日開催となったが、共通の出演者による別の内容を行うことで、両日参加した子どもたちにとってはアーティストらとの再会の場ともなり、舞台芸術を身近に感じやすいものとなった。クリアザミッションにおいては、台本通りに進行する舞台の演出(大道具・照明・音響)を子ども達が実際にきっかけ通りに遂行するというものだが、スタッフは出来るだけ手を出さず、子どもが緊張感と達成感をより感じられる雰囲気作りが可能となっているのは、劇団と当スタッフが台本制作から演出など、内容の細部に細やかな配慮を施すことにより可能となっている。

・リトルスターダンスフェス

歴史のある大きな舞台に立つという目標を、日々小規模のダンスサークルで練習する子どもたちに与え、育成と地域コミュニティの活性化を寄与するという、地域の文化拠点施設としてのニーズに全面的に応えた事業である。本番だけではなく、前日のリハーサル枠を各団体 20 分取った。演出へのリクエストに全面的に応えられるスタッフ対応に加え、子ども達の誘導などの安全面に気を配り、スムーズな開催が可能となった。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた(と認められる)か。

・コココのダンス

福岡を拠点として日本や世界でも活躍するダンスセラピストを中心として、拠点文化施設と福祉施設や医療関係者らとの繋がりが生まれ、地域の文化芸術の発展や新興に繋がった。今後は、ダンス専門学校や福祉施設へのアウトリーチを展開していくことにより、さらに幅広い繋がりを持つと考え、今回 11/2 に行われたアウトリーチは、施設スタッフ(福岡療育センター・一番星古賀)の協力のもと、マニシア氏と当スタッフの施設訪問となった。音楽に合わせお互いを確認し、指導者を中心にダンスしていくワークショップを行った。緊張をほぐす為、手足を使って花びらや蝶々を表現ながら音楽に合わせたダンスや、帽子や雲や虹をイメージさせる布を使ってそれぞれが自由に表現する時間を共有。地域の劇場と福祉施設がつながることで、芸術文化に触れることが少ない人へのアプローチを実現。また、共生共存の面からも、地域の劇場と福祉が芸術文化を通して、個人へ変換されるきっかけを与えられたと考える。今後も地域や文化芸術に貢献できる企画として、芸術文化の社会的効果を地域へ還元する為に続けていくべき事業である。

・バックステージツアー2019

社会福祉法人へ出演協力を依頼した。演奏を観るということだけではなく、観覧者は、障がいを持つアーティストらとコミュニケーションを図り、ガムランという特殊な楽器の音色が響く空間を体験した。芸術だけでなく福祉や地域共生などの発展のきっかけに繋がられた。

・リトルスターダンスフェス

地域の公民館などで小規模に活動しているダンスサークルなどを対象にした企画である。大きな舞台や本格的な舞台演出の経験が少ない子どもたちにとっても、さらにその指導者や保護者らにとっても、日々の練習の中で、本番へ向けて目指す目標や目的が生まれ、大きなステージで本番を迎えられたという、貴重な体験となったと推測される。

・全ての事業において(自己評価)

参加者、及びスタッフや関係者が、舞台や劇場を通して、表現の創造力・共生する社会、への気づきとなる企画であり、少なからず地域の文化芸術の発展につながっていたと考える。しかしながら、情報発信については、効果があまり見られにくかった。今後の課題の一つである。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した(と認められる)か。

・全ての対象事業において

地域の文化拠点としてのニーズや、役割を考え、それぞれを企画し、実施してきた。事業を継続していく中で、様々な人に施設を認知され、また参加者・関係者などから「また次回も」等のリクエストやアンケートによるコメントをいただいているということは、これらの事業が、自分たちの暮らす地域文化の素晴らしさや芸術と関わる楽しさを伝えるきっかけの場、文化芸術との繋がり場となっていることを実感するものである。

・コココのダンス

この企画は、劇場を越えての事業となっている。医療関係者や社会福祉法人などとの連携を深め、さらにアウトリーチによる福祉施設などへの訪問など組織活動の幅を広げられている。今後は、専門学校などへの訪問も準備を進めており、拠点文化施設として、文化芸術の多様さや豊かさ、障がいの有無に関わらず共働・共存する社会の在り方の“気づき”となる機会を提供していく。